

町の農業の現状と今後の在り方等 について

令和8年3月26日

ソーラーシェアリング検討分科会

みどりの戦略課・総務課ゼロカーボン推進室



箕輪町の農業の現状 と今後の在り方

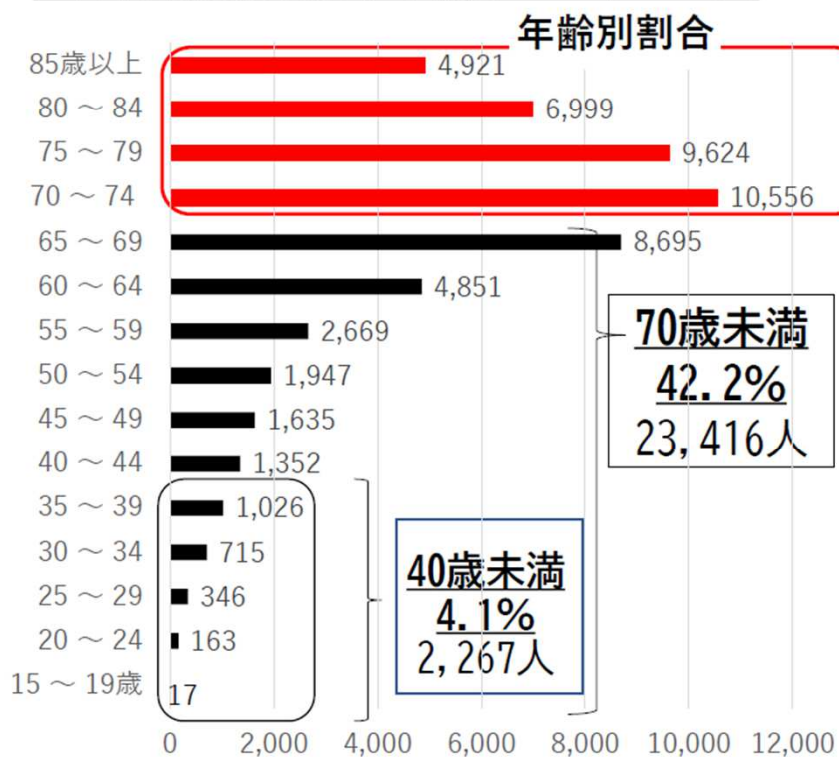
令和8年3月26日

箕輪町役場
みどりの戦略課

長野県の農業の働き手は？

長野県の農業の主な働き手

基幹的農業従事者数 55,516人



70歳以上
57.8%
32,100人

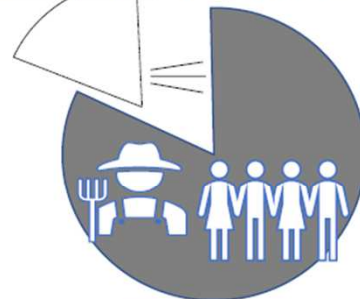
70歳未満
42.2%
23,416人

40歳未満
4.1%
2,267人



10年後
働き手の6割
が85歳超で
リタイア!

直近(2020年)
55,516人 10年前比 2割減



10年後(2035年)
23,416人 今の4割に!



10年後の私達の地域は？

箕輪町

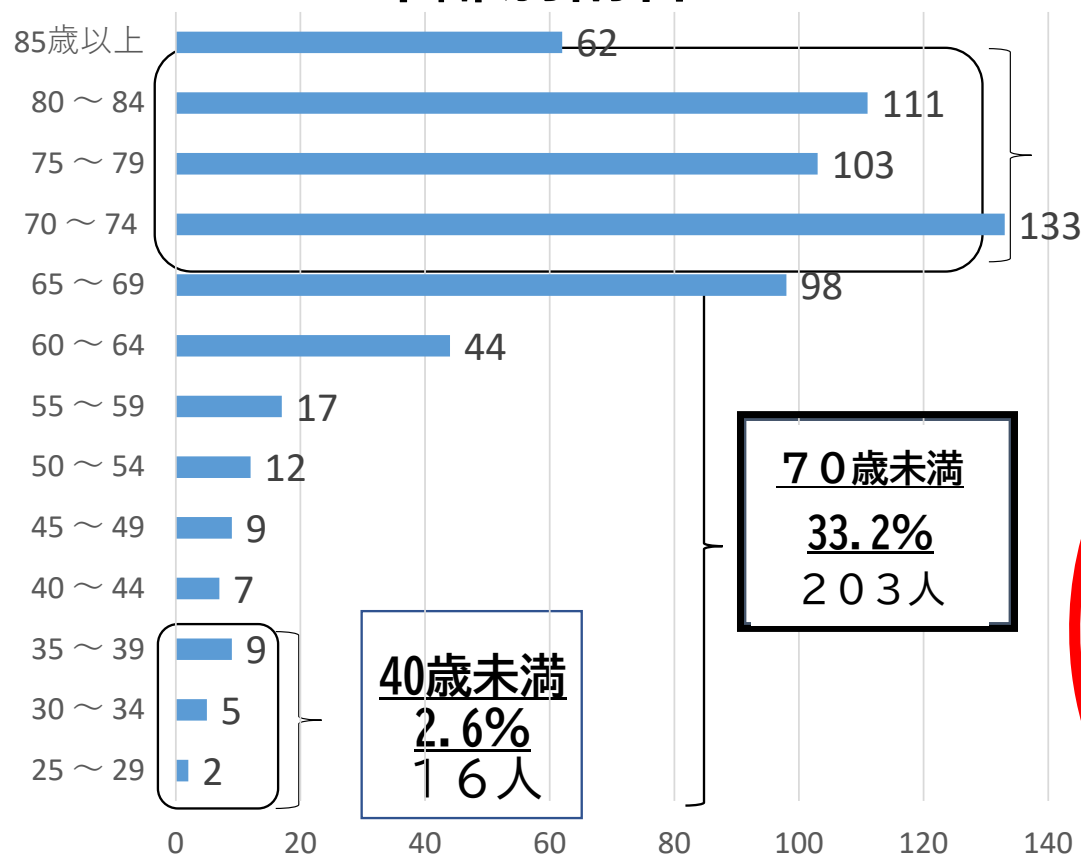


基幹的農業従事者数
(2020年) 直近

612人

10年前に比べ23%減

年齢別割合



70歳以上
66.8%
409人

70歳未満
33.2%
203人

40歳未満
2.6%
16人

10年後
働き手の
6割強が
80歳超

出典：2020農林業センサス

農業の担い手はどうか？

(箕輪町)

15年前 (2010年)

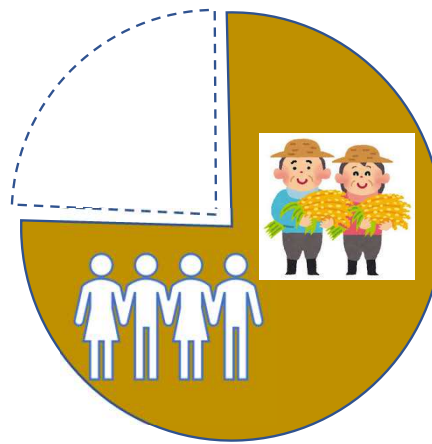
793人



直近 (2020年)

612人

10年前よりも **2割減**

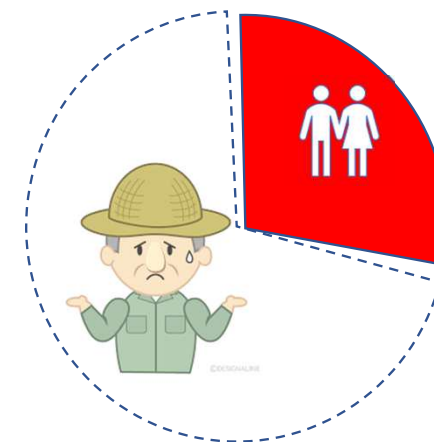


10年後 (2035年)

80歳以上の方が
リタイアしたら

203人

今よりも **7割減**



農業者の高齢化が急加速、担い手が大幅に減少

振り返り

地域計画とは

地域計画は、10年後、私たちの地域の農業をどんな農業にしていきたいか、大切な農地をどう守り次の世代に引き継いでいくかを、地域の農業者の意見をもとに取りまとめた計画。

地域計画

10年後の 地域農業の 在り方

地域でどのような農業を目指すのか
担い手の確保・
基盤整備の方針
など



目標地図

地域で守りたい
農地1筆ごとに
10年後の
予定耕作者を
記入した地図

< 目標地図の記載イメージ (10年後) >

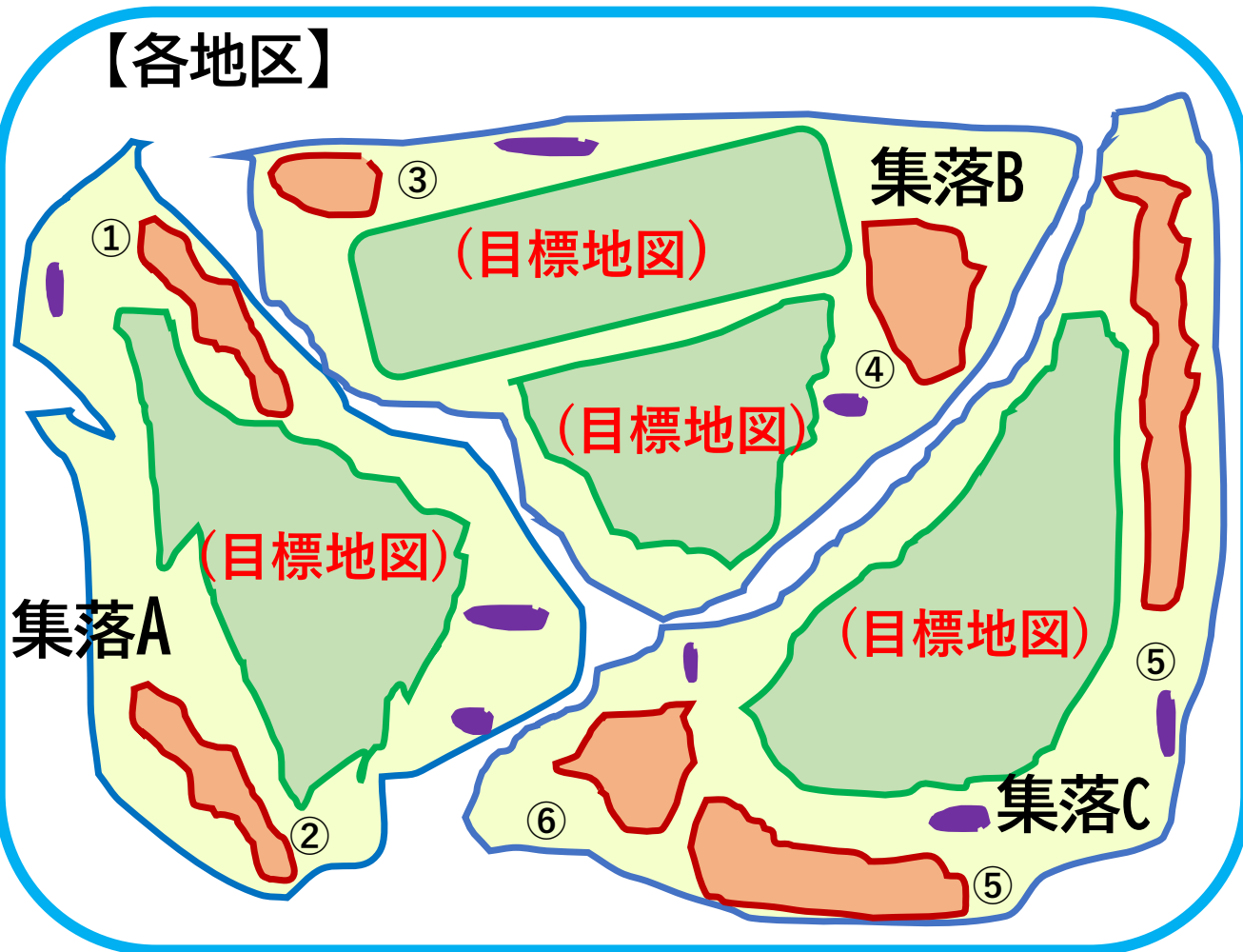
山田太郎	山田太郎	今後検討	松本次郎	今後検討	今後検討
山田太郎	山田太郎	信濃豊作	今後検討	長野花子	上田三郎
山田太郎	山田太郎	長野花子	長野耕作	今後検討	長野花子
今後検討	上田三郎	長野耕作	山田太郎	長野花子	佐久四郎
上田三郎	信濃豊作	松本次郎	今後検討	長野耕作	長野花子
原耕作組合 (受託)	原耕作組合 (受託)	原耕作組合 (受託)	原耕作組合 (受託)	長野花子	佐久四郎

ポイント!

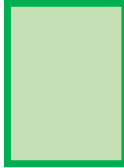


10年後の地域農業の設計図 (実現には多くの人々の理解・協力が必要)

町の地域計画・目標地図を策定 守るべき農地を決めて農地を有効利用する

【各地区】

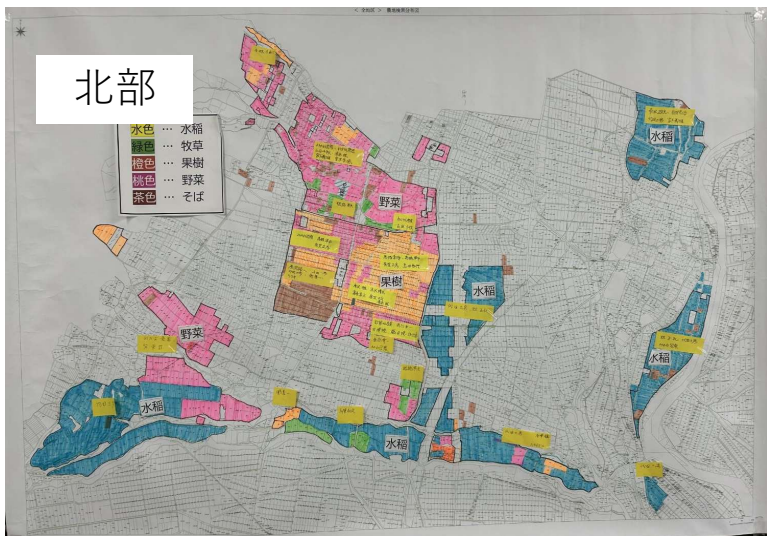


<農用地の区分>

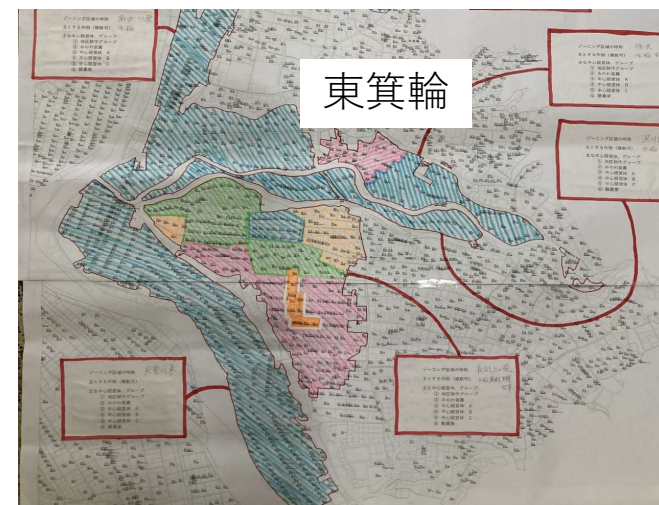
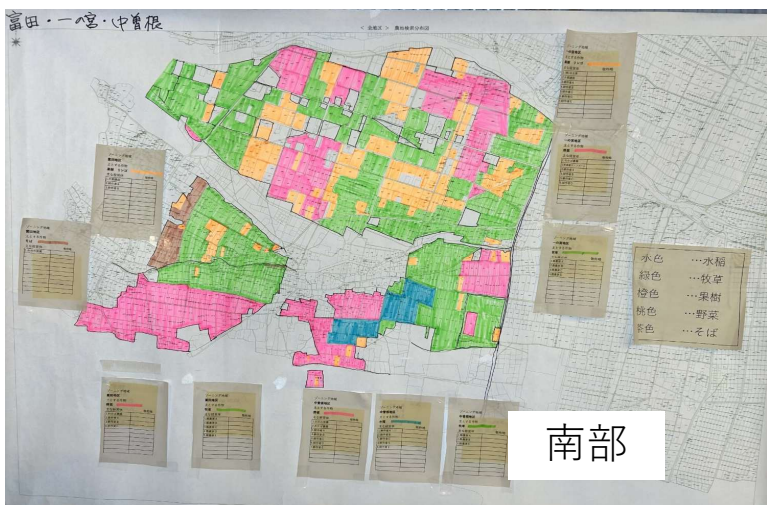
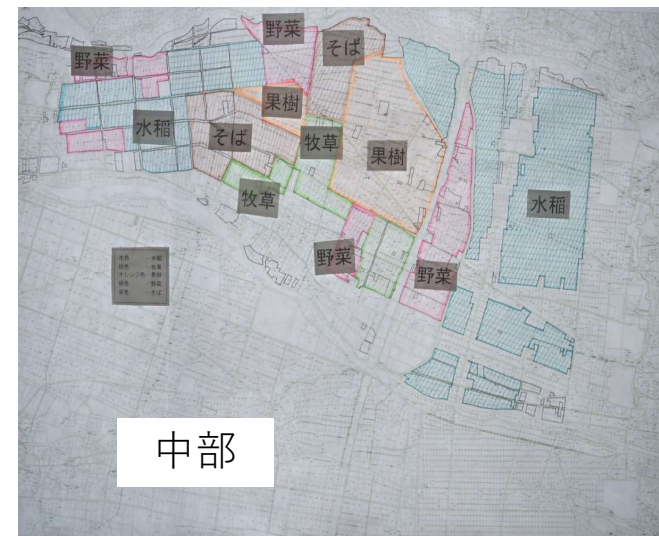
-  農業上の利用
(目標地図を策定)
-  農業以外の用途検討
(農振除外の目安)
-  非農地設定

農地をどのように
利用していくのか
明確化する！

地域計画・目標地図 策定 (令和7年3月策定)



農業委員会による各地区目標地図
農振農用地内の農地
①担い手へのゾーニング
②作物のヘゾーニング (新)



データベース化・AGIS (デジタル地図化)

振り返り

地域計画の実践プロセス

R7年3月末まで
計画の作成

R7年4月から
計画の実行・見直し

現在地

目指す姿
(R15)



計画の策定

計画範囲の決定

受け手の特定

基盤整備

農地のゾーニング

集約化

ポイント！

大切なのは、実行しながら毎年見直し、より良いものにしていくこと

農業従事者の減少・高齢化対策の手段として 1

■ 農業収入・所得の向上（もうかる農業への転換）

- ・ 農地集約・集積による農作業の効率化（地域計画・目標地図）
- ・ 生産性の向上（2期作、高収益作物の作付け）
- ・ スマート農業の導入（作業の効率化、コスト削減）
- ・ 環境にやさしい農業（有機農業）推進 付加価値、販路拡大
- ・ ソーラーシェアリング（農業収入＋協力金（土地貸し）収入）



農業収入・所得向上の手段の一つとして
ソーラーシェアリングがある

農業従事者の減少・高齢化対策の手段として 2

農業従事者の減少・高齢化が進む中で、町の農地を維持していくためには、「地域計画・目標地図」により守るべき農地を決めて営農を継続していくことに加えて、新たな手段を取り入れていくことが必要です。

全国で先進事例のある「ソーラーシェアリング事業（モデル事業）」により箕輪町の将来的な農業の在り方を検討していきます。



ソーラーシェアリングにはメリット・デメリットがあります。
本事業を通じて検証してまいります。

町のエネルギーの状況と検討・推進体制 等について

令和8年3月26日

ソーラーシェアリング検討分科会

総務課ゼロカーボン推進室

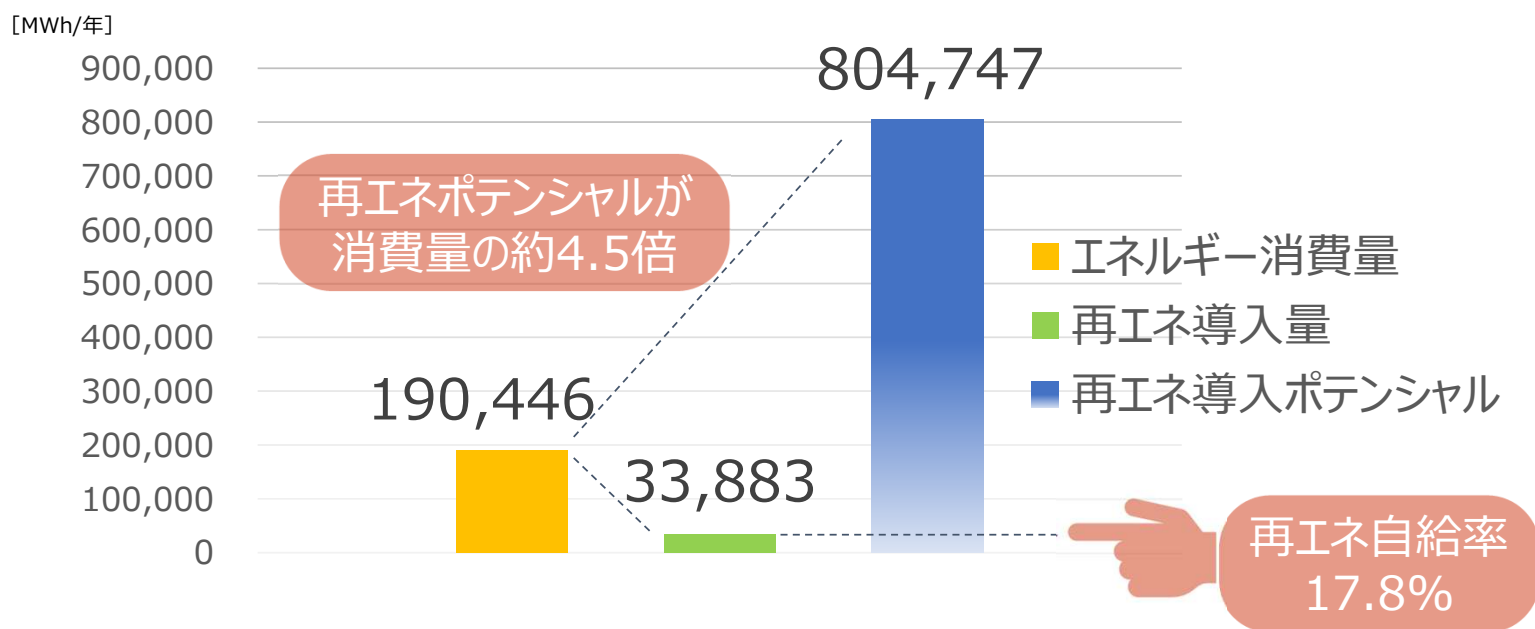
町内の再生可能エネルギー導入ポテンシャル

再生可能エネルギー導入ポテンシャル	利用可能熱量 [億MJ/年]	発電電力量 [MWh/年]	町としての評価
◆太陽光発電	—	779,076	◎ 大いに期待できる
建物系	—	221,131	
土地系	—	557,945	
◆風力発電	—	712	× 安定的に風が吹かない地域
◆中小水力発電	—	24,959	△ 県企業局等に調査してもらったが適地なし
河川	—	24,949	
農業用水路	—	10	
◆太陽熱	4	—	
◆地中熱	22	—	△ 利用設備の導入コストが高い
再生可能エネルギー合計	26 [億MJ/年]	804,747 [MWh/年]	

出所 環境省 自治体排出量カルテ（箕輪町）

2024年11月末時点

町内のエネルギー需要に対する 再エネ導入ポテンシャル（電力）



出所 環境省 自治体排出量カルテ（箕輪町） 2023年度

サステナブルでレジリエンスな地域環境づくり

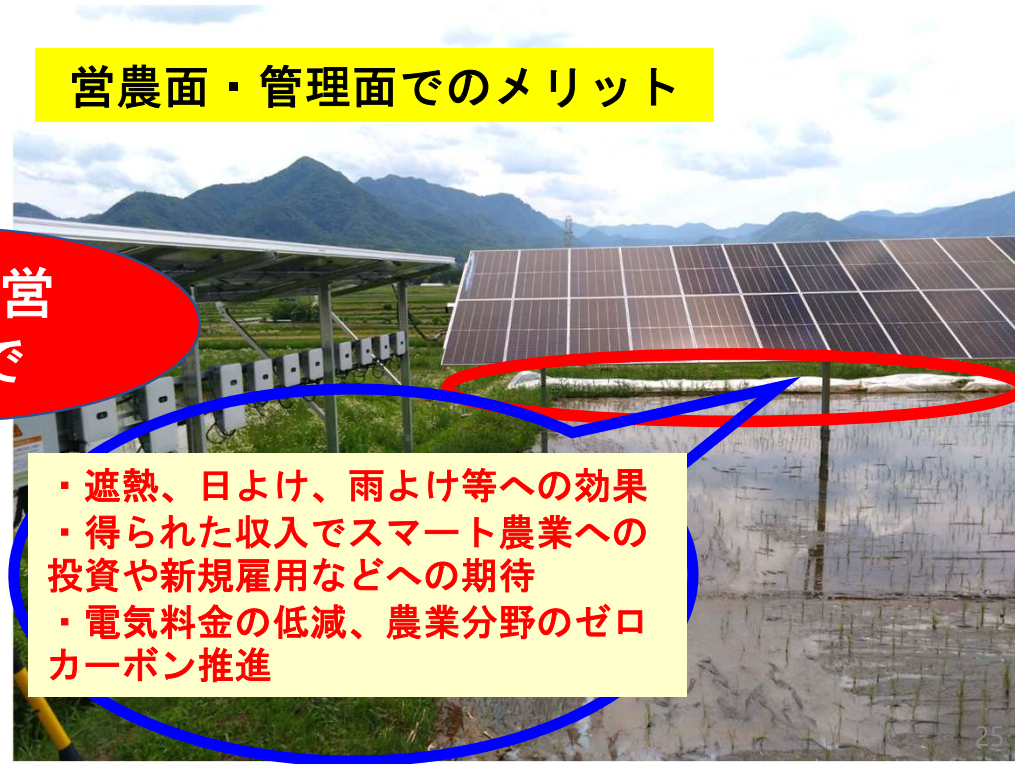
- ・ 当町（長野県内）では、野立て太陽光やソーラーシェアリングに根強い抵抗感がある。
- ・ 農業者（土地所有者）、農業委員会、地域の理解を得るためにも、水田、畑、牧草地など作物に応じた**小さなモデルを作って関係者等で話し合うこと**が大切と考える。
- ・ 国や県と一緒に取り組むモデル事業であるという位置づけの方が、地域協力等を得られやすいと考える。

収入面でのメリット



- ・ 田んぼのセンター設置では、減収率20%程度。
- ・ 土地貸し型で**協力金年4万円程度**農業者に支払えば、**所得はプラスになる**

営農面・管理面でのメリット



- ・ 遮熱、日よけ、雨よけ等への効果
- ・ 得られた収入でスマート農業への投資や新規雇用などへの期待
- ・ 電気料金の低減、農業分野のゼロカーボン推進

農業経営
基点で

農地転用（一時転用）令和5年度許可件数（農水省関東農政局管内抜粋）

営農型発電設備の設置に係る許可実績(都道府県別)について(令和6年3月末現在)

(単位:件)

農政局等	都道府県	許可件数		(参考)再許可件数(左の外数)	
		累計	令和5年度	累計	令和5年度
関東	茨城県	428	62	269	58
	栃木県	210	42	45	15
	群馬県	521	31	438	95
	埼玉県	135	13	243	54
	千葉県	702	23	685	177
	東京都	6	2	9	2
	神奈川県	75	5	66	15
	山梨県	214	25	152	32
	長野県	98	8	65	18
	静岡県	679	68	443	107

地域ぐるみでゼロカーボン推進プロジェクト

地域新電力会社
(ICT伊那みらいでんき)



余剰電力等
非FIT・卒FIT

再エネ供給

自給

家庭
事業所
公共施設
営農型
太陽光発電

事業所 公共施設等

(現在町施設・町内事業所各1か所で活用)

- ★電力の地産地消・自給率の向上・地域内経済循環等を住民・事業者・行政等が連携して取り組むことはできないか
- ★災害に強い町づくりに寄与することはできないか
- ★田園工業の町を持続・発展させることはできないか など

(高効率空調：起債実施)

屋根収容

箕輪町のエネルギー収支の分析

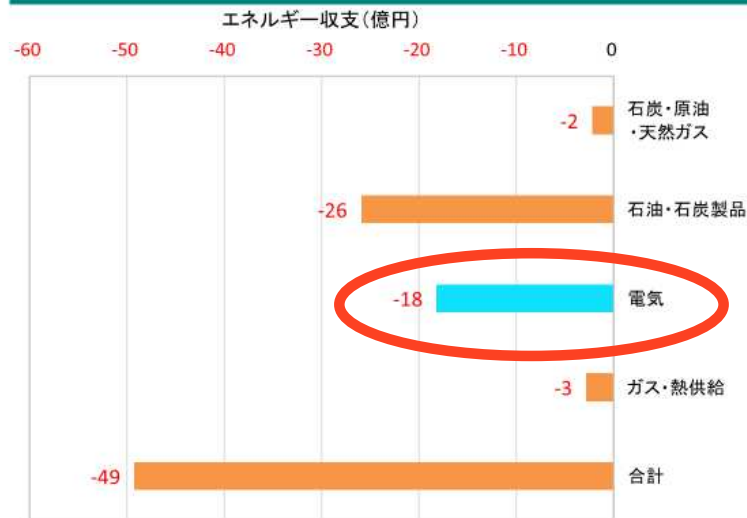
分析の視点

- エネルギー収支は、エネルギーの地域外への販売額(移輸出)から地域外からの購入額(移輸入)を差し引いたエネルギーの取引に関する収支であり、エネルギー収支の赤字が大きい地域はエネルギーの調達を域外に依存している地域である。
- ここではまず、エネルギー収支をエネルギー産業別に確認し、どのエネルギーの取引によってエネルギー収支が赤字または黒字となっているかを確認する(下図①)。
- 次に、付加価値に占めるエネルギー収支の割合を全国や県、人口同規模地域と比較し、地域経済の規模に対するエネルギー収支の水準を把握する(下図②)。

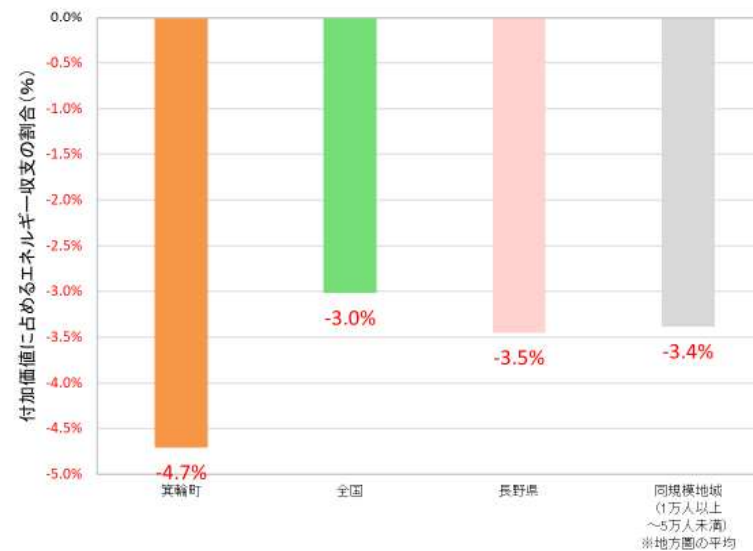
エネルギー収支は**-49億円**であり赤字となっている。エネルギーの内訳別では、「石油・石炭製品」の赤字が大きい。

付加価値に占めるエネルギー収支の割合は、**-4.7%**であり、全国、県、人口同規模地域と比較して赤字の割合が高い。

①エネルギー収支注1,2



②付加価値に占めるエネルギー収支注2の割合



注1) 「石炭・原油・天然ガス」のエネルギー収支は、本DBの「鉱業」の純移輸出に全国平均の「鉱業」に占める「石炭・原油・天然ガス」の純移輸出の割合を乗じることで推計した。

注2) エネルギー収支には原材料利用や本社・営業所等の活動(=非エネルギー)は含まれない。※Ver5.0までは含まれる
出所: 「国民経済計算」、「県民経済計算」、「経済センサス」、「産業連関表」等より作成

箕輪町らしい気候変動対策の推進

① みんなで知る／みんなで伝える

- 気候危機：世界と箕輪町への影響
- 地球と次世代への責任：気候正義
- 町のビジョンと取り組み、企業の取り組み
+ 町民がすべきこと、できることを明確に
= 地球温暖化対策アクションプラン2022
- 地区や学校、職場のまとまりを活用
- 地域の情報を日ごろから話題に
- 「ゼロカーボンを実現する先進地」を
町民が他地域に自慢できるようになる

みのわが
好き！

② みんなで備える／みんなで変える

- 農業と工業の町が持続するために
- 太陽光発電に適した立地を活かす
- 省エネと再エネの経済的メリットをわかりやすく示す：心理的ハードルを下げる
- 取り組むことが楽しくなる活動デザイン
- 象徴的な変化を起こしてみよう：
例) 学校や高速バス停への送迎など

③ みんなで備える／みんなで変えるために

- 箕輪町で共に生きるすべての人々の「自分ごと」にしよう
- 行動する町民を支えるしくみを、協力してつくろう
- 「ゼロ仲間」になろう、「ゼロ仲間」を増やそう
- 気候町民会議のような学びと対話の場をつくり、参加しよう

新たな検討・推進体制について



町環境保全条例第20条の2の規定に基づき設置 町長が委員委嘱

